



日進中だより

学ぶ生徒 誠実な生徒 鍛える生徒

令和8年 10月2日

第 6 号

さいたま市立日進中学校

TEL 048-663-1251

FAX 048-663-0834

水の姿に学ぶ ～しなやかに、そして強く～

校長 長岡有実子

今年は雨にたたられる年となっています。8月末から続く雨の日は記録的な長さとなり、9月も数日を除いてほとんど雨の日が続きました。新人体育大会においても、日程の延期や雨の中での競技が余儀なくされるなど、多くの部活動がその影響を受けました。

雨が降らなければ「水不足」と心配し、降れば「降り過ぎ」と嘆く。自然の恵みに支えられながらも、その力の大きさに翻弄される私たち人間の姿を感じます。北陸地方をはじめ、関東でも自然災害による被害が報じられています。被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

一方で、日本人は古くから水とともに生きてきました。各地域の水の特性を生かした酒造りや染物は、日本文化の発展と深く結び付いています。また「水に流す」「水を差す」「水は低きに流れる」「水清ければ月宿る」など水にまつわる言葉も数多く残されています。先人たちは、ときに脅威となる水と向き合いながら、その恩恵を受け、知恵を働かせて暮らしてきたのです。

中国の思想家・老子は、「上善は水の如し（上善若水）」という言葉を残しました。最も理想的な生き方とは、水のような生き方であるという教えです。水は、どのような器にも合わせて姿を変える柔軟さを持っています。また、自らを誇示することなく、自然に低いところへ流れていく謙虚さも備えている一方で、長い年月をかけて岩を削るほどの力や、ときには濁流となって大地を動かすほどのエネルギーも秘めています。

新人体育大会では、天候に左右されながらも、与えられた環境の中で精いっぱい力を発揮しようとする生徒たちの姿が見られました。思いどおりにならない状況に直面したときこそ、その人の本当の姿が表れるものです。環境の変化に柔軟に対応し、周囲への感謝や思いやりを忘れず、自分の目標に向かって努力を続ける。そんな姿勢は、まさに水の持つしなやかさと力強さに通じるものがあるように思います。

雨の多い今年だからこそ、水の恵みと怖さの両方を改めて感じています。そして、水の姿から学べることも少なくありません。本校の生徒たちが、水のような柔軟さと謙虚さ、そして内に秘めた強さを備えながら、それぞれの夢や目標に向かって着実に歩んでいくことを願っています。

希望の登校 笑顔の活動 満足の下校